

第三十七回 同窓会開催

平成二十九年一月二日

― ホテル浦島にて ―

平成二十九年一月二日、
ホテル浦島高砂の間で開催
第三十七回卒業生同窓会が
されました。



※卒業生は、同窓会会員です。

西哉素史実行委員
長、司会は内田照也
さんで開会の挨拶後、
亡くなられた恩師、
同級生に黙祷、ご冥
福をお祈りしました。
西哉素史実行委員
長は仕事の都合によ
り欠席されましたが、
出席者全員に委員長
からのお土産の鈴焼
を配りました。
先生方にも御出席
頂き、青山富男先生、
大前四郎先生、瀧野
秀二先生、崎久保隆
先生の四名に当時の
想い出や近況報告を
一言ずつ頂きました。
また、瀧野秀二先
生につきましては、
昨年、藍綬褒章を受
章され、出席者全員
でお祝いをし、クラ
ス代表より四名の先
生に、感謝の花束を
贈呈しました。
東原伸也さんの乾
杯の発声で宴が始ま
り、高校時代のエピ
ソードや、想い出話
に花が咲き、「還暦で
同窓会をしよう」「い
や、それまで待てな
い五十五歳で」など
の声飛び交ってい
ました。
出席者は二百七名
で、海外(アメリカ)
からの出席者、北海
道、九州と遠方から
この日のために帰郷
してくれた同窓生も

おり、感慨深いものがあ
りました。

ホテル浦島石垣支配人か
ら「丙午年で一クラス少
ない(十一クラス)のに二百
名超えての出席はすごいで
すね」とお褒めの言葉を頂
き、あらためて私たち第三
十七回卒業生の結束の強さ
を再確認しました。

時間はあっという間に過
ぎ一次会を盛会に終え、場
所を変えてホテル浦島鳳凰
の間にて、西康さんの司会
進行により二次会が開かれ
ました。

出席者は百四十二名で、
先生方も出席してくださ
り、クラスをこえての楽しい会
話が弾み、中には高校時代
に戻ったかのように大はし
やぎをしている同窓生も見
られました。

最後に泉秀さんの挨拶と
万歳三唱で幕を閉じました。
この日のために何度も打ち
合わせを行い、お世話を頂
いた実行委員長、クラス代
表様ありがとうございました。

新宮高校第三十七回卒業
生の今後のご活躍をお祈り
し、また次の同窓会を楽し
みに豊かに人生を歩んでい
きましょう。

第三十六回卒業生 母校に寄付

平成二十八年一月二日に
恩師七名・同級生一九二
名が参加して、ホテル浦
島にて第三十六回卒業生
同窓会が開
催されまし
た。その代
表者が八月
十九日に来
校され、余
剰金を新宮
高校に贈呈
されました。



研修旅行で同窓生の 企業を訪問

― 同窓生の協力をもとに、社会観や
職業観を育てる ―

「総合的な学習の時間」に
おける学習活動の一環とし
て、二年生が研修旅行(十
二月九日・十二日)でトヨ
タ自動車元町工場とレクサ
ス星が丘を訪問した。これ
は、本校と繋がりがある企
業との連携を深め、社会と
の関わり方を実践的に学ば
せることを目的としている。
生徒一人ひとりが社会の動



村井正誠氏 モダンアート展 開催



同窓会では、九月九
日・十日に
行われた新
宮高校彩雲
祭の同窓会
企画として、
新中第十七
回卒業生の
芸術家・村
井正誠氏の
作品展を開
催しました。
多くの方に
ご来場いた
だきありが
とうござい
ました。

平成二十八年度 関東新中会

篠笛や絵画オークションなど
の趣向を凝らして

平成二十八年十月九日(日)
午前十一時より、ホテル・
アルカディア市ヶ谷(私学
会館)にて平成二十八年度
関東新中会総会を開催した。
五十二名が参加して行われ
た総会は、同窓会物故者に
黙祷を捧げたのち、榎本貢
(新高十七回卒) 関東新中
会幹事(会長代理)の挨拶で
開会され、来賓の和田安司
新中会長、荒尾寛新宮高校



平成28年度関東新中会 2016年10月9日 於 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

同窓会副会長、畑伸憲新宮
高等学校校長よりそれぞれ祝
辞があり、次いで会計報告
が承認された。懇親会は再
会を懐かしむ歓声により、
終始、和やかな雰囲気にな
り、草加和子さん(新高女
三十七回卒)のシャンソン
独唱、河原井秀子さん(新
高二十回卒)の篠笛独奏、由
比五男さん(新高六回卒)、
青木英輔さん(新高九回卒)
の絵画オークションなどの
新たな催しで、より一層の
盛り上がりを見せ、楽しい
ひと時となった。

会員の構成にも変化が顕
著である。このまま高齢化
を座視するのではなく、今
後、何らかの対策を講じて
いきたい。なお、当日の出
席者は次の通りであった。

〈来賓〉

和田安司、矢口純一、荒
尾寛、畑伸憲、高須崇、小
野俊二

〈新中卒業生〉

尾崎肇、渡邊朔郎(顧問)、
尾崎公(会長)、小坂博康、
宮戸保、玉置廣親、奥野幸
導、東昭、久保倫生(副会
長)、清水侃、大石通明、鈴
木富三

〈新高女卒業生〉

杉本郁子、玉置昭代、渡
邊清子、日下和子、渡邊倫
子

〈新高卒業生〉

磯部祐一、後呂岩平、角
隆平、森弘明、山口宣晶、
宮本哲哉、由比五男(幹事)、
尾崎啓、大前卓也(幹事)、
川崎まゆみ、岸野平子、甲
口和美、西秋男、横山知子、
岸周雄、青木英輔、勝俣敦
関一武、小貝邦昭、榎本貢
(幹事)、小久保泰宏(幹事)、
小谷清伍、河原井秀子、城
和生(幹事)、鈴木鉄士、倉
本秀彦、國見一郎、宮戸真
一郎

※第44号より、文字サイズを大きくしました。

新高第二十七回卒業 還暦記念同窓会 四十二年前の青春時代に戻って

百六十名が新宮ユーアイホテルに集う

新年が明け、一月二日、第二十七回卒業生(昭和五十年三月卒業)の還暦同窓会が開催され、百六十名がユーアイホテルに集合しました。司会の大前裕一君と関康之君の開会挨拶から、宴が始まりました。来賓の辻本雄一先生と木戸地伸先生から温かいメッセージをいただいた後、両先生の音頭で乾杯しました。次に、新宮高校同窓会長

1・2・D組



3・6・K組



の夏山晃一さんより同窓会の活動について報告されました。私たちは四十歳、五十歳、五十五歳、六十歳と四回目の同窓会となります。還暦という節目でもあります。今までとは違う会にしたいと考えておりました。同時に「先輩を育てたい」という一心で、シンガーソングライターの丸石輝正君(平成十年三月卒業)にミニライブをお願いすることにしました。

母校に寄付

第二十七回卒業生が、還暦同窓会での余剰金を母校に寄付いたしました。



4・5組



7・8・9組



新中43回 有志の会 開催

平成28年11月7日

今年も東京や大阪からの要請を受け、十一月七日宇久井国民休暇村へ集まりました。昨年より三名少ない十名の参加であった。東京地区から下路寿、東梯三、大阪地区から矢口純一、前川漠、池永凡、森脩、地元からは角雄治、和玉好視、玉置泰作、和田安司らの参加であった。過去四十三回といえは必ず出席している。た湯浅、久保、神崎、生駒らの面々が先に逝ってしまったことは何と言っても痛恨の極みで、淋しい限りである。今回特に感じたことは今までの酒豪は姿を消し、総じて酒量が減少したに寂しさを感じたことだった。すでに齢八十六歳となった今、皆年には勝てないということか。ともあれ、何かにつけて結束力が強く、頼りがいのある同志で素晴らしい仲間たちである。多分今回が最後だろうと思っている。



第三十五回卒業生 母校に寄付

平成二十七年一月二日に、ホテル浦島にて第三十五回卒業生同窓会が開催されました。その代表者五名が平成二十七年二月二十

六日に母校に、余剰金を新宮高校に贈呈されました。

新宮高校へ寄贈

本校の卒業生(平成十二年三月・第五十二回卒業)に、国立科学博物館植物研究部 特別研究生／博士研究員(公益財団法人発酵研究所若手研究者助成)である白水貴氏が、「奇妙な菌類ミクロ世界の生存戦略」という本を執筆し、平成二十八年四月にNHK出版より発行されました。このたび、白水氏より、在校生にも是非とも読んでほしいとのことで、この本の寄贈をうけました。

新宮中学・新宮高女・新宮高校

新宮三校同窓会関西支部総会

七十四名の参加者で盛大に！

新宮三校合同同窓会関西支部総会の恒例となった参加者全員による合唱が続き、会場は盛り上がった。二十八日五月二十八日(土)午前十時三十分より二十八年度新宮中学・新宮高女・新宮高校合同関西支部同窓会総会を大阪市ホテル・ア

ウィーナにて七十四名が参加して開催した。阪口三身幹事(新高六回卒業)の司会により開会し、まず、同窓会物故者に黙祷を捧げた。矢口純一(新中四十三回卒業)新宮三校同窓会関西支部代表の挨拶に続いて来賓の和田安司新中会長、榎本貢関東

があり、阪口幹事よりの会計報告が承認された。今年度は来賓の皆さま方を合わせて七十四名の参加で楽しく和やかな雰囲気の中で無事総会を終えることができました。今年度の出席者は昨年度より増加したが、新宮中学、

新宮高等女学校の同窓生の出席者の減少はこれからも続いて行くので、新宮高卒業生の参加者を増やしていくために、その対策として今年度は広告、抽選会などを採用した。今後とも会の運営、あり方についても十分に検討し対策を講じていきたいと考えている。

次いで乾杯の音頭で和やかに懇親会が始まった。例年通り会場は紀州弁が飛び交い旧交を温めあい、世代を超えての先・後輩の交流が随所に見られて同じふるさとを持つ仲間意識が一段と盛り上がった。宴のあと、全員により恒例の合唱、三校別の記念撮影とメイン・イベントたる校歌斉唱と進み、山川昭吾さん(新中四十一回卒業)の閉会挨拶と氏の音頭による万歳三唱でお互いの健康と次回の再会を約して、懐かし楽しい一日もお開きとなった。

来賓の方々



旧制新宮中学校



新宮高等女学校



新宮高等学校



新宮高等学校

